

江右宮花守物語

全

特別

14

696

32



696
32

若宮花守物語

序

抑名護屋の代より、昔織田氏後守左城百拾年
の音初此城を築くも、其後惣持中絶す。
家康公中興す、今己の七拾五年、誠近の御
勅書曰く、四民十字衛道海神社佛閣數千軒、
敬し奉事せよ、と、別其中より若宮八幡牛頭天王、
御城下萬民の我神とす、是故日々盛ん、此若宮の



小寺
玉足文庫

別當桃井長門といひ洛陽上御尊の神全の末葉也
勅勅の者あれは神の道と知るの沙汰世よとて
若宮の神職と勅の文は花守と云神子有其形
於よは居る一誠は是より神も乃ち物なるん
世の人常よ云り花守毎年正丑九月此宮京
來り湯立杯取り正月の事あれ桃井殿よ
來り年始の祝儀と云れ桃井對面
一花守より云來りよとのる石盤

いよ一き酒飲たふしは花守の
醉狂一顔色は別口一如何長門
浮世の物替りつこ女末世の人の心証
長物語あれ料紙と出我事以書留
中の事一桃井の名と其伝は硯料女
よめ一神勅と思ひ信書あり花守
月とゆはれ中の事一若宮屋敷昌
先若宮若實仁大度よ中お

何れもあゝ加増といふは毎まゝ小僧とほはるま
家守の面々といふ事の中へ申し知悉の浅海の
根刺も交年人あり君の山損之業其の石の
なれは何年んのかるは朝魁人の逗留之年人
事と書きぬ其國の海にありしなり。

一 竹腰飛物友正是もあゝ朝鮮人の逗留ありて子細ハ
中西奥田竹腰之老を叱く申す申す家守
三つと申す誰か彼らも今日側候と初めは
知らぬ女口とのさるる申す御の成も家守の
日あまのひさひ廿九のちの多し申す龍物事
借金増し是皆之老ありとあるは是れ一行未

龍物事あゝ山損の由と方と法借金の増は
三倍といふ悪人とも伯父方へ合方ある申すといふし
誠子今も形要のひやあゝとあり

一 渡辺半藏指物し武意者の子持をん危いし以
智あかす申す批刺よ不友同石大隔守御業の
時の龍物事と物し君を御田君おりのひさる石の
石の石と石知立石へ川も虚病をまゝ家守と石の
百姓とせしめ金銀とめり母の孝も道は
かちつる事多し誰かあか魚子君の石方ち切り
おりの石はひ人ありと申す石の石の石の石
とて玉侍の凡上もきりて人ありと申す

書物は半蔵の事は西方と書し申す世の人代
本願寺宗ありと云事、世れをいふ、西金とつ
る方ある金銀とある由、事あり、半蔵の事
あり、半蔵、同名新徳の忠事、老老と云、以
何と申すをいふこと、先新徳の忠事、半蔵に
清徳の事あり、大代安、陣大代安あり、西
清徳の事あり、大代安、大酒業耀とあるを
胃あり、先年普請ありとある、山馬也証あり
先年の宿、西、町、佐治、遠、同、年
あり、世れ、四、奉行の支取、役事、半蔵の語
清徳の忠事、大代安、清徳の忠事、世れ、

此の書物の指し、浦、何の事か
加増と云、新徳、君の忠事、思ふは、
徳、市中、金、何、半蔵、
世の事、神の人、世の事、
世、又、字、字、字、長、世、
世、神、の事、半蔵、
世、神、の事、半蔵、
世、神、の事、半蔵、
世、神、の事、半蔵、
世、神、の事、半蔵、

命をたれども... 新はり... 切成若...
身あり... 知没の語... 切成... 小使
の... 小使... 君... 又... 又...
一 志... 者... 智... 志...
知... 我... 再... 好... 好... 好...
一 一... 今... 今... 今... 今... 今...
一 一... 東... 東... 東... 東... 東...

後見の... 教へ... 利... 教... 生...
事... 日... 日... 日... 日... 日...
一 一... 小... 小... 小... 小... 小...
一 一... 一... 一... 一... 一... 一...
一 一... 一... 一... 一... 一... 一...
一 一... 一... 一... 一... 一... 一...

覆て見ても事出さずて裁者申ふ人令
且玉は佐子居ると世もやと傳ふとさ似
るべんしと本意あらは阿部守江の伝とさく
惡事いふの此は宗匠の西に誰彼出入ら
はばとわたりと龍羅と川原とあるもその
は村田の身より身より宗の宗とすや
た宗の宗風とすく宗事と宗事と宗事
龍助宗師の武能信宗の何とあつた
いふと宗事の阿部守江の宗師と宗事
男婦の身自傳と宗事と宗事と宗事と宗事
宗事と宗事と宗事と宗事と宗事と宗事

書女の世に後と宗事と宗事と宗事と宗事
宗事と宗事と宗事と宗事と宗事と宗事

一 大道寺主事宗師の宗師及節月と宗事
阿の如く親と宗師と宗師と宗師と宗師
其身宗師の宗師と宗師と宗師と宗師と宗師
あつた宗師の宗師と宗師と宗師と宗師と宗師
二 宗師加保と宗師加保と宗師加保と宗師加保
宗師と宗師と宗師と宗師と宗師と宗師
宗師と宗師と宗師と宗師と宗師と宗師
宗師と宗師と宗師と宗師と宗師と宗師
宗師と宗師と宗師と宗師と宗師と宗師
宗師と宗師と宗師と宗師と宗師と宗師

元屋敷八令
海川又宗師
屋敷トゾ

長宗師宗師宗師宗師宗師

併年酒もよれを阿保守丹登の川用向とま
細の上とまをわすたな方と申ふ家や信人り
より向うと若くあやまらるる毒子はおおのど
を身も毒来あるは道年と月には信人の
せんはみんをよとすは年とつとんぬりハ
あるり一山内信年と道年とあはれ
四絨のやと諸人之妹聲の事もぬれは是も
とも強しと後多とよとせと重女諫と事
事と
智と古書と右りわすとの氣をぬ
せりよと我と綿と云

一石川伊賀守親徳りは結核也といふ事
一入智恵の作一今度江と大事と智恵とあ
らすと美志都我死前後に結核の中とあ
他の家本は矢草也在雲の川用向の美人何
敬小依と智恵とあはれと申すは伊賀守
かしたぬ結核人と大分の川用向の美人と
たすしと伊賀守の阿保守物なれは伊末ハ
然るはと先格年と申すは伊賀守の事也
伊賀守と申すは伊賀守の事也古伊賀守の
くみと大分と結核人と申すは伊賀守の
同本は川同七部の人三人の高き方五百石此

老子の再談 其六年七月復の月 居るを
あつたは善の善し 善人の男色に溺るの事あり
と教老母の考れを記し せんすれ 同家の内
復の同家の出の記あり せんすれ 老母の内
老母の悪の同家の考れあり せんすれ 同家の
二年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
三年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
四年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
五年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
六年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の

病氣の好くはばかす 其六年七月復の月 居るを
竹の夫人の考れあり せんすれ 同家の
加増の考れあり せんすれ 同家の
ある せんすれ 同家の
二年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
三年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
四年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
五年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
六年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の

野崎 ^{新撰} 元来公家の長袖か出先より 事務
下り先君の仕人も 松平助の考れあり せんすれ 同家の
助の考れあり せんすれ 同家の
七年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
八年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
九年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
十年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
十一年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の
十二年の老母の内 考れあり せんすれ 同家の

内好とて教徳あり今ハ父子二子九百の高低を別
國家者後ハ危のあり子持ありし時早知れり今
若し柳柳ありあわれも世信とて言ふ事も首も
くけよか—あやうくおれ自らも世の人さうこれこそ
本邦生らるゝのみあり長神の出たりの人さう中り世
穿鑿のこも智恵もあれ理非も解るべしとて山は
相傳ふ乃任持せり時 **あ**はれき言ふ世説を府上よ
せんといふ事社をいへあやうくあれも **四**信の事あり
不付の事梅枝并の孫家と **小**波八重とあり而れハ
あまき—主税一代の信ありし **船**上りの事持
成りありと倉山の事とありは是れとて山は持

ある海—小波後の事ハいりいりともさへし名と
てい **海**家のものあれと一世は危—とてあはれり
柳波の事ハ大格動事とて世傳え來る事ありし事あり
との事記しき **白**千人とて小波と大格動事とて
白下とてい—とて柳波の事ありし事ありし事あり
のり—とて諸人信とて今何れの大分七者ありとて
は口—とてい—とてい—とてい—とてい—とてい—
る事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事あり
或い出ころし時 **家**者中由姓とて **山**信とてい—とてい—
娘の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事あり
世中—とてい—とてい—とてい—とてい—とてい—

とさせし位相ありぬる是もまた海軍の事あるは
 政界の仕合もまた遠慮とす神の事あるも自奴ら
 も見ざるに山岳格もまた欠かすも君を大切とすもな
 勝つ能くさす事す神あり具加しつるものありけり

徳の家臣の謀ありぬ

白鼻の先の智恵ありぬる者ありぬも

ちうと入事と思 武家の仕合も

又

京より屋の川のまはるる事

たるの事ありぬ 武士もさうさう

一 山陰將監親より生れぬ事ありぬ 其ノ 中一親徳文章なり 其ノ

智恵と親徳ありぬる親の代り居間あり
 女侍の退席ありぬる再申も兼ねたり 其ノ
 今公廊下ありぬる宿まの附いたる真
 今もこれにもお盤ありぬる生つて世に能く
 法ありぬる事ありぬる今より老中とせば
 法ありぬる事ありぬる今より老中とせば
 少人としていぬる事ありぬる法ありぬる事ありぬる
 身石と稱し諸事 其ノ 任事し切ぬ事ありぬる
 分る事ありぬる 其ノ 任事し切ぬ事ありぬる
 比すれ十倍の早知人あり

一 お蔵 其ノ 取替 其ノ 中知所

有らんをんがのけいある節一 扱又市一 忠陽指の歌やま
引あるんは 是八路成金よ 志もき方判る 卓敷持
河原を潤し 主能志す 之 忠陽の指はる 手取るぬ 就
付し 指はる 度つ くのひ とも けい とも のひ とも
有る 小坪 とも 今も 持を 毎も とも 小山 とも 分る
ま 金 とも ぬ とも とも とも とも とも とも とも とも
親の古風 とも とも とも とも とも とも とも とも とも
上の山 とも とも とも とも とも とも とも とも とも 今
山内 とも とも とも とも とも とも とも とも とも 今
大い とも 上の山 とも とも とも とも とも とも とも とも とも
加務 とも とも とも とも とも とも とも とも とも 今

謀公を昔 忠陽 とも 市川 とも あり とも 忠陽 とも 指
伊を 忠陽 とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも
孝 とも 忠陽 とも 小役 とも とも とも とも とも とも とも とも
音 とも 忠陽 とも の とも とも とも とも とも とも とも とも とも
中 とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも
金 とも 忠陽 とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも
て とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも
耳 とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも
忠 とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも
あ とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも
朝 とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも とも

此世傳作と密知少少と五人扶持と申れぬ
伝と密成長と志つていひ徳民の傳とつていひ
治事又伝抱しと
中將傳の伝中世とあり
りい伝とつていひ
すい見とつていひ
たきいといひ
極く其入伝とつていひ
多し其傳とつていひ
折りといひ
身傳といひ
中將傳といひ

依傳と伝とつていひ
其傳自身とつていひ
伊賀と伝とつていひ
却といひ
新田といひ
あり軍法といひ
右といひ
年といひ
時といひ
物といひ
伝といひ

与る者とも毎々の仕形をよりし伊をある事と云ふ
中其子身と云ふ事由の事伊をいと信うて
是より金も年々其務を神の徳とてすは是
治事よりする事万人を信うて志も伊をある事
との事信うる事即の事町中をより山内
風と物も所人たるとみとてその文は是より山内
船屋より其物信うる事お町より何れは信う
てんことと云ふ事や山内と云ふ物も是より信う
同方の仕形と云ふ事人々の事ひいし金と
大なる事と云ふ事君の正なる事
孫也と云ふ事孫也と云ふ事孫也と云ふ事

道員は返用と云ふ事勅と云ふ事近來の
事行中事勅と云ふ事勅と云ふ事孫也と
孫也と云ふ事勅と云ふ事勅と云ふ事
町人寺社より孫也と云ふ事孫也と云ふ事
孫也と云ふ事勅と云ふ事勅と云ふ事
上の事と云ふ事勅と云ふ事勅と云ふ事
孫也と云ふ事勅と云ふ事勅と云ふ事
孫也と云ふ事勅と云ふ事勅と云ふ事
孫也と云ふ事勅と云ふ事勅と云ふ事
町中の理形は町中より孫也と云ふ事

是と雖も... 我利我利... 國は... 仕業... 大... 人... 諸人...
是と雖も... 我利我利... 國は... 仕業... 大... 人... 諸人...
是と雖も... 我利我利... 國は... 仕業... 大... 人... 諸人...

あるは... 下

一... 石川... 高... 平... 石川... 高... 平... 石川... 高... 平...
一... 石川... 高... 平... 石川... 高... 平... 石川... 高... 平...
一... 石川... 高... 平... 石川... 高... 平... 石川... 高... 平...

其四の仕至大要のよあるふみ我成くはに等
お笑取しは等しく如曾良の君の以下智恵友の
人の信をよめし上は有る者た山丹如く好後
の善あるれ我良自むよはよのと智恵もよめ
大子の役人よすありし

一 留書奉行の人世間老中の乳持は以て
の如く近き世用のもの多く老中取は先念多し
先きの為を指あること世間山丹をよめし能く老中
毎にせは後念を山用向とくくつすことあり
くくやうしきんありし

一 坊勘を悉く世間は香薫散と物是之に成る言

病圓あるはとる朝報半人と在はは時野大
とる在屋まの時廿八よりとる殿ありはは信の時
野大とる八人信とるはとる廿八より十四の参元
とるは久し出ありとるは久し是館の者といし
ちひはは供の信とるはとる是とる是とる國年將集集
山谷信集前がはひしとるはとるは信集とるは
心長はとる其役とるはとるはとる批判
一 山馬山河は信集をれしは後言及物集酒りそ
世間大馬馬の信集はとるはとるはとるはとる
とる人しをく信集を集山丹信集はとるは
事しとるはとる言とるはとるはとるはとるは

組下は惣要好き諸君及武具馬具の友
中一 指料おれくわゝ氣虚病を治す川籠或新中
元下す屋を五本の者へ送るゝ遊戯しし
新洲の儀入せし 若海東世のよめ能者
存之而息を移領すゝの女中 後事せよ忠
たし國ハ後すゝ恨今す以具又まゝに批判す

一 書院書院人何と云 法海公後又是初と名
くあ人ゝ各様方々他は五方必まゝに細ハ江信
を一中一其の役ハ川とさるゝ川用今成すを
く部一むかむか 是又一藤まをく川岩田公ハ
おしめゝしとておしとる名津田其をんすハ

十元たる年おれを山用ハ仕意す人すも於 位位
とされ御子とあ人ゝ方とゝと一五年とるハ大馬馬
をゝ 志保氏ふゝ保集所 鼻の先光あつたうをり
中津高村とむかひかき男之位信親子似了驍ら
信保成へハハ人病者もやハ海平軍印例を
千石以上あるはひもあることと自答し女幼をれ
三年も七年もよ山権良と云本家男と親也
之和しと志もを成るゝ親の影を以信の
りハ親と張すゝた人 流式拜候すゝた
文子孫とるゝ志もあゝ信下よハ眼
此信のあゝたは二三人ゝ是と知すハ小政也

上方の借入金に於ては、今より一掃の事ありと云ふも、
この借入金に關するは、智恵も無く、一向に六人の
不圖、又も此の事、小頼の切米、拾石、幾、十、千、石、あり
其昔の如く、地、古、を、拾、石、幾、十、千、石、あり
是、事、申、上、申、の、事、あり、七、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
仍、江、原、使、の、使、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
係、數、を、拾、石、幾、十、千、石、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
指、上、中、務、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
取、組、後、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
と、ん、と、ん、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
積、石、川、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の

借得、うら、は、是、事、大、方、部、へ、
惣、借、得、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の

一、務、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
別、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
及、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
と、ん、と、ん、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
江、原、使、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
上、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
年、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の
大、勢、の、事、あり、六、拾、石、幾、十、千、石、あり、江、原、使、の

出陣の時より一先年松平参上養子の身を預け
其の方田を六豊の方へ依り今由不那中へ
悪く出陣の一度は招き元年参上を以て
お役も子参されお役受りの外苦勞なれは
と御と能はれを格申す時世の御心
御具と好くを夜宿ありあり十人
又年より心の若き生れは批判の
是具と能はれを格申す時世の御心
道牙より一誰かかるとは
お役も子参されお役受りの外苦勞なれは
と御と能はれを格申す時世の御心
御具と好くを夜宿ありあり十人
又年より心の若き生れは批判の
是具と能はれを格申す時世の御心

雨より誰を離別せん

一 福永五郎の林市より
後受と初め林におと
出陣の痛みの
義徳の四を
一天
山内
蛇
家の
也

年々如斯く亦少くは何れやとて之のつらき事
せしむる何れに於て其の由に尋ね奉りし

一 誓田奉行此を尋ねられたる細末誓田の者言ふに 法華を
信するの神やと云ふに神は何方にもおろしき事と云ふに
たふさふさなりやと云ふ

一 普請奉行何れに傳へて不便請願諸人おぼき誰と云ふに
持て上言之淺はるに於ては諸願を申されども俱に其の
本意と云ふに信する事付かざるに於ては云ふ事ある

一 惣代何れに信す少くは信あり或は信ありも付かざる事
あるに氣味に於ては其の由に尋ね奉りし 山本三浦におぼき事
ありしかども其の由に尋ね奉りしは何れに目あり

一 誓田の信す少くは信あり或は信ありも付かざる事
あるに氣味に於ては其の由に尋ね奉りし 山本三浦におぼき事
ありしかども其の由に尋ね奉りしは何れに目あり

一 誓田の信す少くは信あり或は信ありも付かざる事
あるに氣味に於ては其の由に尋ね奉りし 山本三浦におぼき事
ありしかども其の由に尋ね奉りしは何れに目あり

とも道よあきし
 花は五か八何のこらうあま
 若君様方あきし
 海も一巻八巻舟の山出
 事あれはも三年あま
 西州人百難し
 君の山次第も
 られも山軍用
 老中少治
 上々足輕
 一 只野暮人

成瀬豊前守

一 同務人
 一 同務人
 一 同務人
 一 同務人
 一 同務人
 一 同務人
 一 同務人
 一 同務人
 一 同務人
 一 同務人

以上市見二百人

大道寺
 山内将監
 寺社
 山内用
 山内
 小畑
 内

新田... 神... 元... 迎... 神... 福... 彈...

昭和三年
五月...



Large area of faint, illegible handwritten text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.

